

目的 女子短大生の肥満に対する意識を探ると共に，体位と食生活のあり方，健康状態との関連性について検討することを目的とした。

方法 幼児教育科学生 255人，家政科学生 93人の総計 348人を対象に調査表を配布し，その場で記入させて回収した。体格の判定には Broca 指数を用い，全対象者をやせ型から肥満型まで A～G の 7群に分類し，やせ型を A～C，標準型を D～F，肥満型を G とした。各群における食生活のあり方，肥満への意識，健康状態をまとめ，体位と食生活のあり方，健康状態の関連性について調べた。

結果 1. 欠食および朝食摂取状況については，毎日一回は欠食する者が全体の 8% で，やせ型の A 群と肥満型 G 群の欠食率が高かった。2. 間食を毎日食べる者は全体の 46% で，やせ型 B，C 群と標準型 D 群に多く，時々食べる者は 43% であった。内容はスナック菓子 が最も多く 32% で，次に多いものはジュース・コーラなどの飲料で 23% であった。3. 嗜好調査では，甘いものが好きな者，塩辛いものが嫌いな者はいずれもやせ型より標準型・肥満型の割合が多かった。4. 肥満に対する意識では，Broca 指数 90.0～94.9 (標準型 D 群) で 72% の者が肥満型と意識し，Broca 指数 100.0 以上の者は全員が肥満型と意識していた。また，肥ることを気にする者は全体の 76% であったが，そのうち肥らないために努力をしている者は 35.5% であった。5. 健康状態については，疲れやすい症状を訴える者の割合が最も多く，全体の 41% であった。一般に，やせ型より標準・肥満型の者に健康に関する訴えが少なかった。